

高級魚 トラフグのふ化仔魚放流



トラフグ *Takifugu rubripes* はフグ目フグ科トラフグ属に属していて¹⁾、日本で漁獲されるフグの中では、1番の高級魚です。1年で25cm、2年で35cmに成長し、最大で70cm以上に成長する大型種²⁾とされています。北海道沿岸～九州南岸の日本海・東シナ海・太平洋沿岸(四国と九州の南岸は比較的少ない)、瀬戸内海、東シナ海北部；サハリン南部オホーツク海沖、朝鮮半島沿岸¹⁾に非常に広く分布しています。産卵期は南が早く北が遅い傾向にあり³⁾瀬戸内海では4月下旬から5月が主な産卵期⁴⁾です。

漁獲量は2002年の383トンから減少傾向で、2013年には250トンであり、漁獲量の指標値および資源量の推移から資源水準は低位、動向は減少と評価されています⁵⁾。本県では2008年の45トンをピークに2012年には7トンとなっています⁶⁾。人工種苗の放流は岡山県、広島県、山口県、徳島県、愛媛県で行われていましたが⁶⁾、本県では行われておらず、広域的な見地から協力を求められることが考えられていました。

今回、本県坂出市、与島漁協の岩黒島の漁業者により、2019年4月26日に漁獲されたトラフグを用いて、ふ化仔魚放流が次の通り行われました。

トラフグふ化仔魚放流結果(令和元年)

ハッチングジャ No	収容 卵量(g)	収容 卵数(粒)	死卵量 (g)	ふ化率 (%)	放流ふ化 仔魚数(尾)
1	451	315,700	7	98	310,800
2	245	171,500	7	97	166,600
3	243	170,100	5	98	166,600
4	223	156,100	5	98	152,600
5	441	308,700	17	96	296,800
6	179	125,300	9	95	119,000
7	143	100,100	8	94	94,500
8	147	102,900	5	97	99,400
計	2,072	1,450,400	63	97	1,406,300

4月26日 採卵、採精 → 授精
 ふ化器(ハッチングジャー)に収容 水温18℃
 5月 2日 卵が黒くなり、ふ化した仔魚が数尾見られた
 4日 ふ化がピークに 1回放流
 5日 残りの個体を全て放流

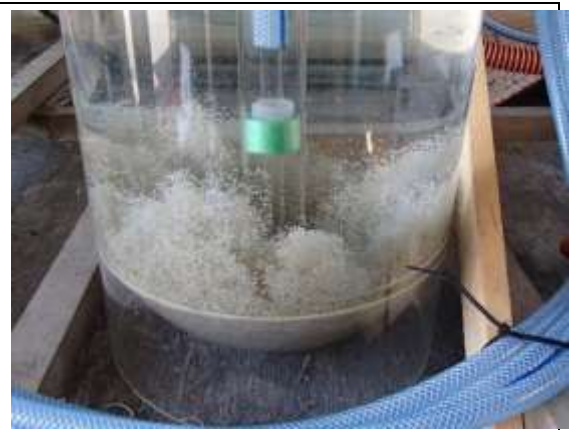
1g当たりの基準卵数: 700粒

採卵日: 平成31年4月26日

放流日: 令和元年5月4・5日



ふ化器 (ハッチングジャー)



回るトラフグ卵



放流の準備



船にタンクを載せて岩黒島から放流場所へ



船からホースを使い放流



今回、ふ化した仔魚（20倍で撮影）
平均 2.95mm

※トラフグの卵巣と肝臓は強毒、腸は弱毒、精巣・皮膚・筋肉は無毒であり、食べる際には注意が必要です。普段販売されている切り身や、刺身等、飲食店で提供されるものは資格を有する調理人により調理され販売されていますので安心して食べることができます。

最後に、今回の種苗放流にあたりご協力いただきました水産研究・教育機構 瀬戸内海区水産研究所 屋島庁舎の吉浦 康寿 様 ありがとうございます。

【参考資料】

- 1) 波戸岡清峰, 2013. フグ科. 中坊徹次 (編), 日本産魚類検索: 第2版, pp. 1737, 1956. 東海大学出版会.
- 2) 松浦啓一, 1988. 益田一, 尼岡邦夫, 荒賀忠一, 上野輝彌, 吉野哲夫 (編), 日本産魚類大図鑑: 第2版, pp. 348. 東海大学出版会.
- 3) 藤田矢郎. 1962. 日本産主要フグ類の生活史と養殖に関する研究. 長崎水試論文集第2集, pp. 1-121

- 4) 藤田矢郎. 1988. 日本近海のフグ類. 水産研究叢書, 39. 日本水産資源保護協会, 東京, pp1-128
- 5) 水産庁. 平成 26 年 (2014) 年度トラフグ日本海・東シナ海・瀬戸内海系群の資源評価 (ダイジェスト版).
- 6) 瀬戸内海海域栽培漁業推進協議会. 平成 27 年 3 月 31 日策定 瀬戸内海海域トラフグ栽培漁業広域プラン

(文責 技師 林和希)